

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」  
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開
研究テーマ名	高齢者の生活行動データベースの構築および可視化による振り返り学習の実践
研究代表者	溝上智恵子
所属機関・部局・職	筑波大学・図書館情報メディア系・教授
研究成果の総合評点：A	
研究成果に係る所見	
<p>スマートフォンを用いた高齢者ライフログ収集・蓄積の実現可能性が検討され、全国の公共図書館における高齢者サービスとして提供するなど、高齢者の現実の活動をサポートし、実践的な研究として一定の成果をあげており、評価できる。研究成果の積極的な公表、普及に努めていることも認められる。ただ、ウェアラブルデバイスの開発も含む当初の計画とは異なるスマートフォンを使ったデータ収集・蓄積に止まるなど、当初の計画とはかなり乖離している点が見受けられる。振り返り支援サービスの検証については、高齢者自らの行動変容を促したかどうかという点での有効性は限定されているように思われ、思い出し俳句の実証実験も面白い試みであるものの、その因果効果の確認を行うことが期待される。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い